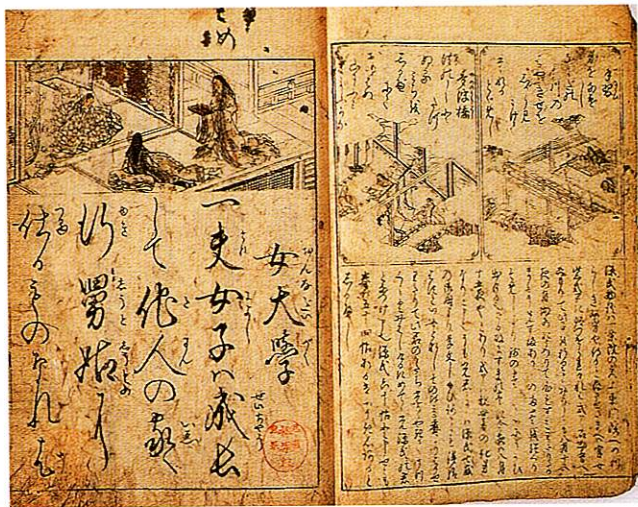
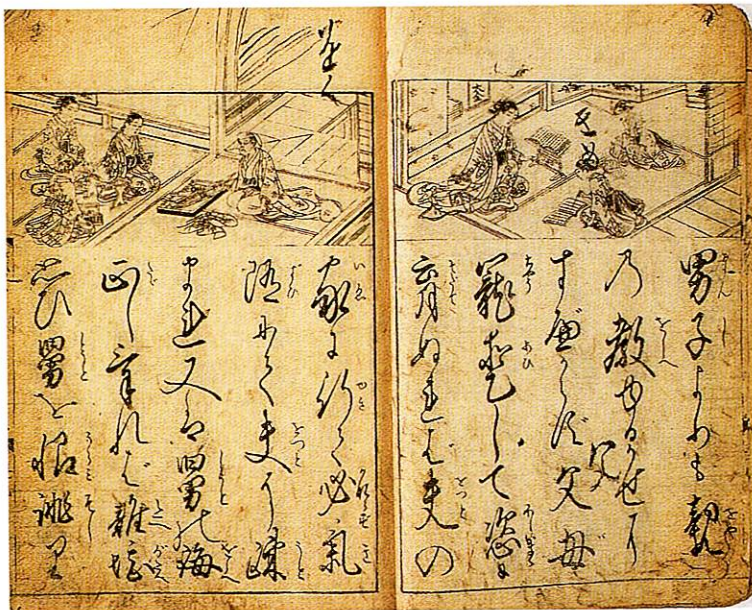


著者未詳。「女大学」は、女子教訓を趣意として、特に結婚後の實際生活に焦点を置いて近世庶民の手にふさわしく改編してある。最古の板本は、享保元年（一七一六）刊『女大学宝箱』である。壁書形式により十九か条の女訓と結語から構成されている。「女今川」と並んで最も板種が多い女子用の往来物である。



36-1  
 (女大学) ※題簽欠、巻首題に拠る。  
 (おんなだいがく)  
 一冊 大本  
 享和2 (1802)  
 柏原金兵衛・西村源六・柏原清右衛門



36-2

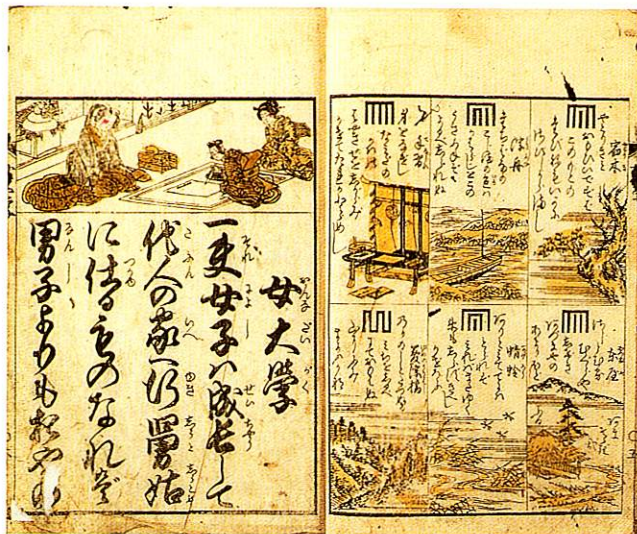


36-4

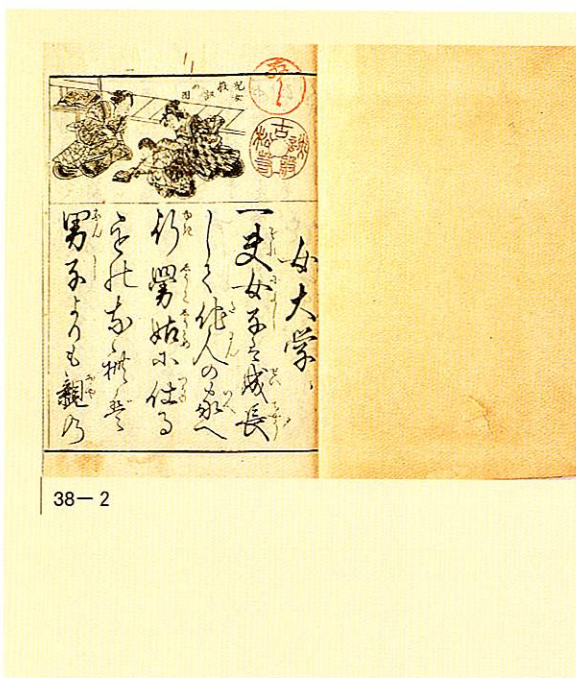


36-3





37-1  
 <元治新刻> 女大学操鑑  
 おんなだいがくみさおかがみ  
 一冊 大本  
 元治元(1864)  
 文江堂梓 吉田屋文三郎板



38-2



38-1  
 <頭書絵入> 女大学教箱  
 おんなだいがくおしえばこ  
 一冊 半紙本 刊年不明  
 益軒貝原述 浜本伊三郎・福富藤吉

明治の『女大学教箱』

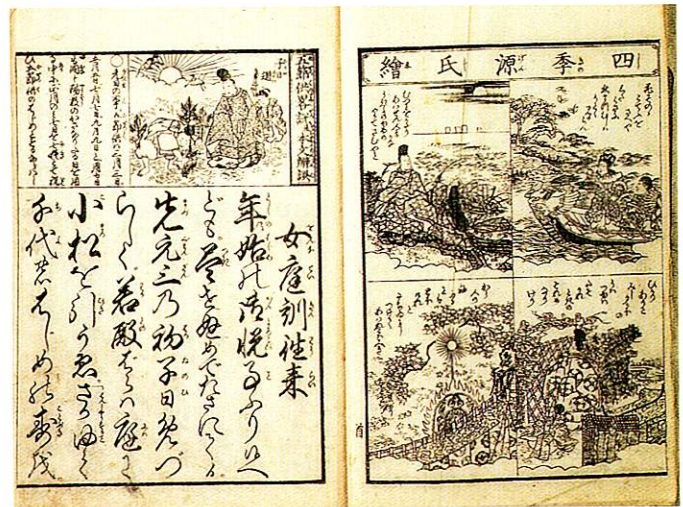


39-1  
 女大学宝箱  
 おんなだいがくたからばこ  
 一冊 半紙本 江戸期  
 篤信著 山口屋藤兵衛 ※一丁めが破損。





40-1  
 女庭訓大倭囊  
 おんなていぎんやまとぶくろ  
 一冊 大本  
 嘉永4(1851)訂正  
 笠亭主人校訂 榮久堂 山本平吉梓



40-2



40-3

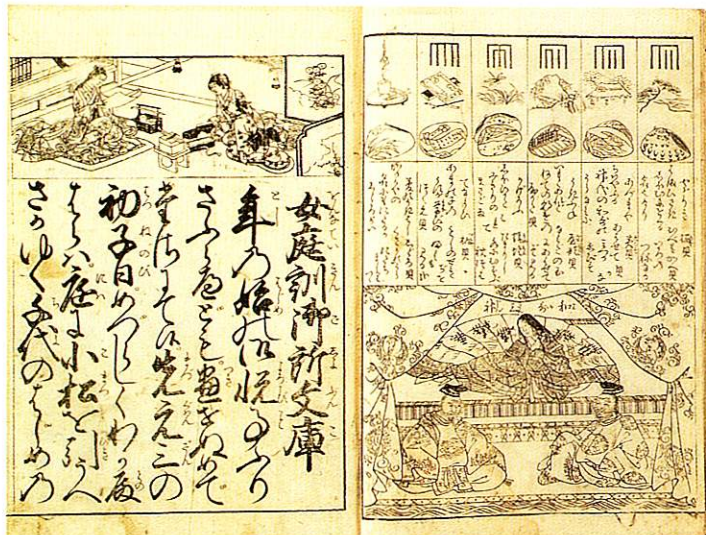




41-1  
 女庭訓御所文庫  
 おんなていきんごしょぶんこ  
 一冊 大本  
 慶応3 (1867) か?  
 月岡丹下昌信図 四書堂 著屋宗八

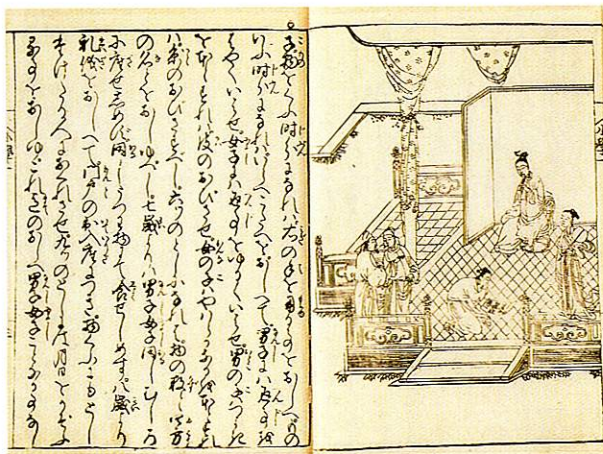


41-2



41-3

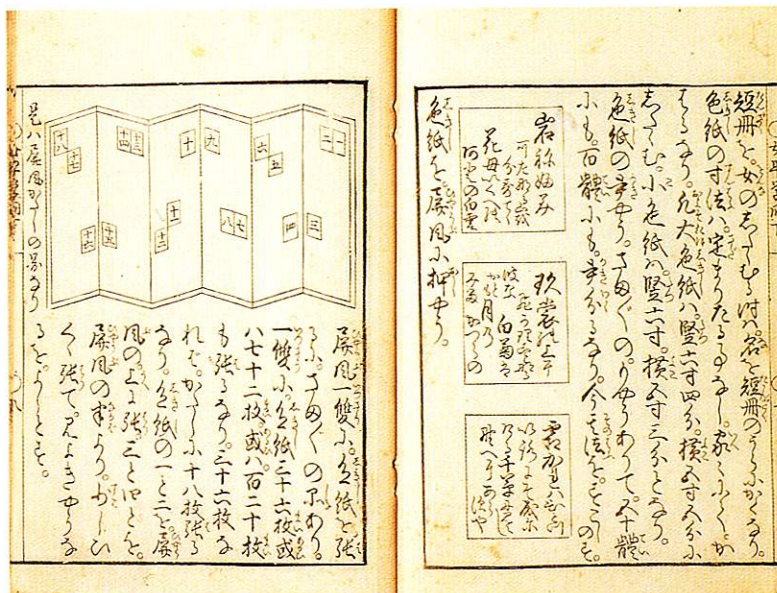




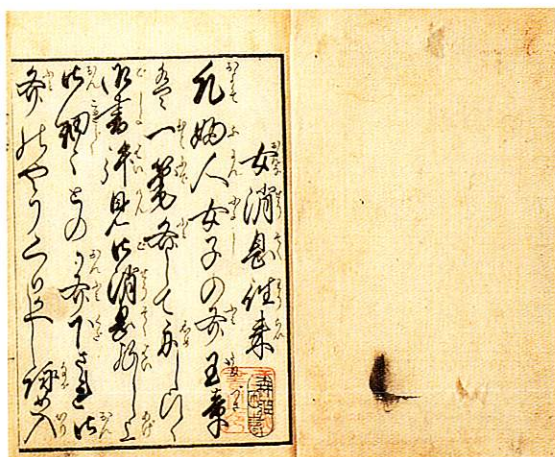
42-2



42-1  
倭小学  
やまとしょうがく  
四冊 半紙本  
宝暦9 (1759) 改  
梅村三郎兵衛板



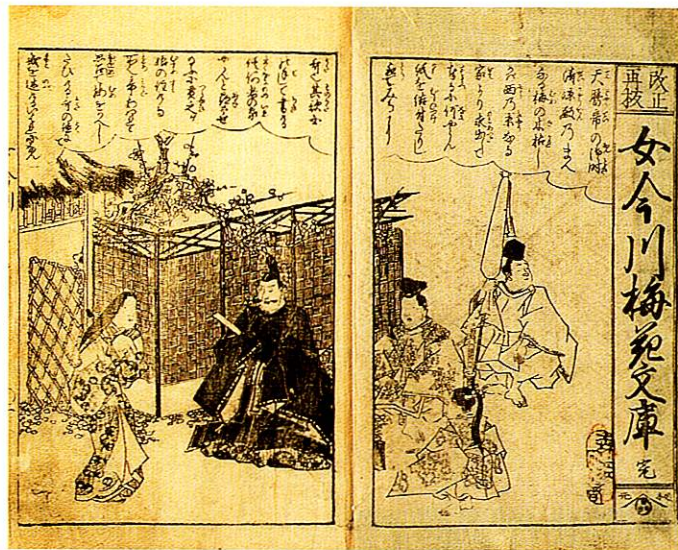
43  
女早学問  
おんなはやがくもん  
一冊 半紙本  
安永6 (1777) 序  
大江玄園 (久川靱負) 著  
須原屋茂兵衛・大野木市兵衛・  
河南四郎右衛門・  
武村嘉兵衛 (博厚堂) 他1肆



44  
女消息往来  
おんなしょうそくおうらい  
一冊 半紙本  
嘉永5 (1852) 新鐫  
河内屋茂兵衛・秋田屋太右衛門・  
平野屋平助・和泉屋市兵衛 他4肆



今川了俊著『今川状』（室町期成立）は、後嗣とした弟の仲秋にあてた家訓を記した本である。その編集形式にならっていくつかの本が著され、女子教訓を趣意とする『女今川』（貞享のころ原板）もそのうちのひとつである。この『女今川』も近代にいたるまで多くの女性に読まれた板種の多い往来物である。



45-1  
〈改正再板〉女今川梅花文庫  
おんないまがわばいかぶんこ  
一冊 半紙本  
嘉永6(1853)春再々板  
原板西村屋伝兵衛・西村屋与八  
松延堂 伊勢屋庄之助板



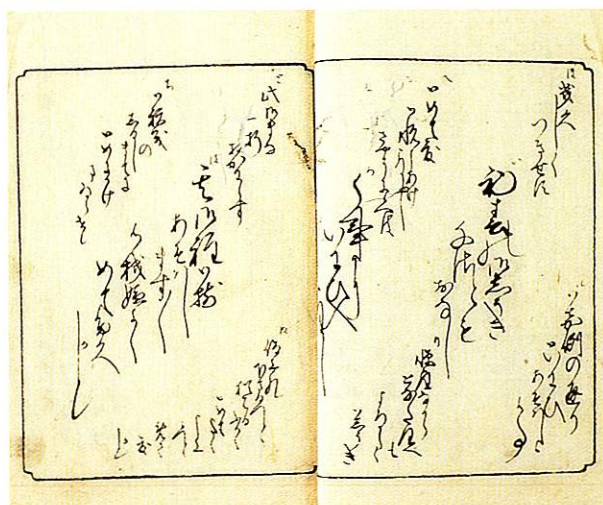
45-2



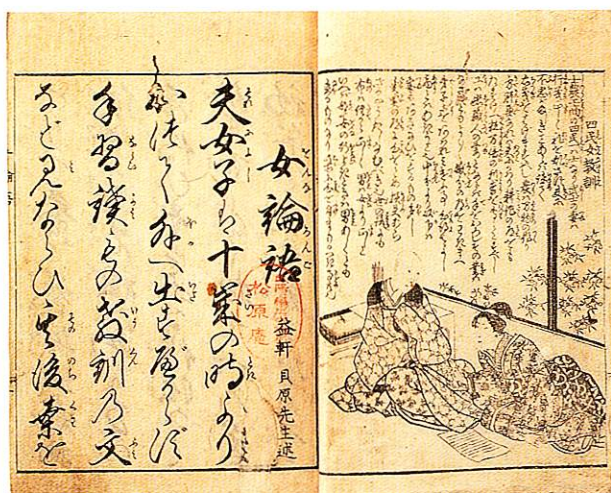
45-3



46  
 女用文増鏡  
 おんなようぶんますかがみ  
 一冊 中本  
 万延元? (1860?)  
 御家臨泉堂 (青木臨泉堂) 筆  
 錦森堂板 須原屋茂兵衛 他11肆



47  
 女実語教  
 おんなじつごきょう  
 一冊 大本 江戸期か?  
 益軒貝原述



48-2



48-1  
 女論語  
 おんなろんご  
 一冊 半紙本 江戸期  
 益軒貝原述 和泉屋市兵衛 他10肆